

平成 30 年度事業計画

平成 30 年度の日本経済は海外経済の回復が続く下、雇用・所得環境の改善が続き、民需を中心とした景気回復が続くものと見込まれている。

一方、私立大学の平成 29 年度入学定員割れ状況は、前年度に比べて 28 校減少し、全体に占める割合も 5.1 ポイント改善し 39.4%となった。しかしながら、平成 30 (2018) 年からは 18 歳人口の継続的減少が見込まれ、私立大学を取り巻く経営環境は一層厳しい状況を迎える。

大学においては、志願者・入学者確保の施策として県外の高校への訪問機会の増加、オープンキャンパスの充実、地下鉄東西線の車両広告などの広報活動を強化した結果、平成 29 年度入学生は昨年度に引き続き入学定員を確保した。今年度も学生の安定的確保を最優先課題として全学を挙げて取り組み、安定した志願者・入学者を確保し、在籍者数の増加を図っていくこととする。

教学面では学修支援センター体制を充実させ、よりきめ細かな学修支援を実施し、学生の学力を高め留年、休・退学者の削減を図るとともに、キャリア教育と就職支援活動を更に強化することにより、本学の魅力向上を図っていくこととする。また、異分野融合型のプロジェクト研究や本学の特色を明確に打ち出す私立大学研究ブランディング事業の推進を図るとともに、研究支援体制の強化を図るため、研究支援センターを新たに設置することとする。

高校においては、中学校、中学生と保護者に対し、組織的に広報活動を実施した結果、平成 29 年度も志願者増となり、昨年度に引き続き入学定員を確保し、収容定員も確保することができた。今年度においても、戦略的な広報活動により仙台城南高校の魅力伝え、志願者・入学者の獲得に努めることとする。一方、全館 Wi-Fi 化の環境整備も整い、本校の特色であるタブレット端末を利用した ICT 教育の先進校として、情報活用能力の向上と効果的な自己表現の手段として、授業や家庭学習、探求学習でも活用し、さらなるスキルアップを図っていくこととする。

今後の教育研究環境を整備していくため、今年度も主たる収入財源である学生生徒等納付金と補助金収入を確保するとともに、効果的支出に努め、引き続き財政の健全化に取り組むこととする。また、学部・学科改組・再編計画の実施に合わせて、八木山キャンパス整備基本構想に基づく建物建替え計画の基本設計に着手することとする。なお、今年度は第 2 次 5 ヶ年計画の最終年度であり、各施策の充実に鋭意取り組んでいくとともに、新たな中期計画の策定に取り組むこととする。

I 事業計画の内容

1. 大学部門

(1)教育研究の充実

- ア. 新カリキュラムの構築
- イ. 学修支援センターの充実
- ウ. 技術支援センターおよび実験等授業科目の支援体制の充実
- オ. 学内就業体験による人材育成および経済的支援の推進

(2)高大連携のさらなる推進

(3)入学者確保のための施策

- ア. オープンキャンパスのさらなる充実
- イ. 女子学生獲得の推進
- ウ. Web 出願の周知
- エ. 高校訪問の充実
- オ. 広告媒体の見直しと新たな広報の拡充

(4)就職支援のための施策

(5)国際交流の推進

(6)地域連携センターの活動・一番町ロビーの活用推進

(7)基盤ネットワークシステムの更改および ICT 利活用

(8)FD・SD 活動の充実

(9)クラブ強化・支援

2. 高校部門

(1)教育内容の整備・充実

- ア. ICT教育を軸とした教員の資質と授業力向上
- イ. 基礎学力の向上
- ウ. 進路実績の向上
- エ. グローバル教育の充実
- オ. 部活動、生徒会活動の活性化と工大との連携
- カ. 転退学者の抑制

(2)受験生、中学校に支持される入試制度の改善と広報活動の充実

(3)工大との接続と進学者確保

(4)教育環境の整備・充実

- ア. 建物及び各階案内表示等の設置
- イ. 情報処理関係の充実

(5)地域連携・貢献への取り組み

3. 法人部門

(1)収入の確保

(2)支出の抑制

(3)施設・設備の改修

(4)八木山キャンパス整備基本計画の推進

(5)八木山キャンパス建設整備事業資金の寄付金募集事業計画